

令和3年度病害虫発生予察指導情報

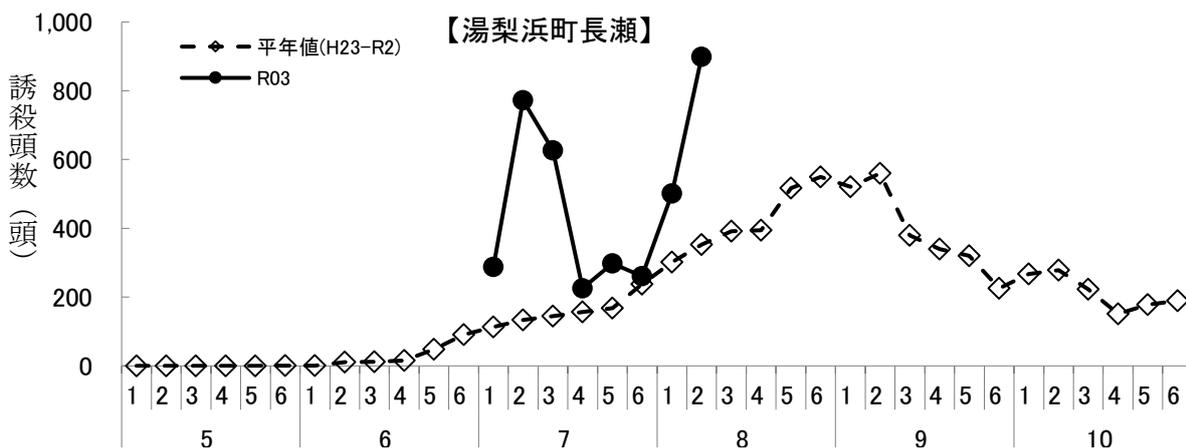
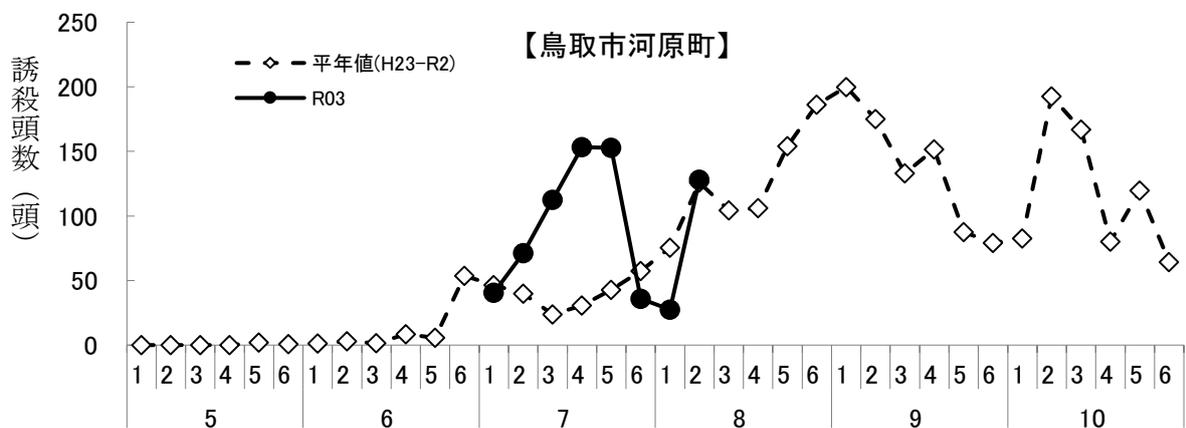
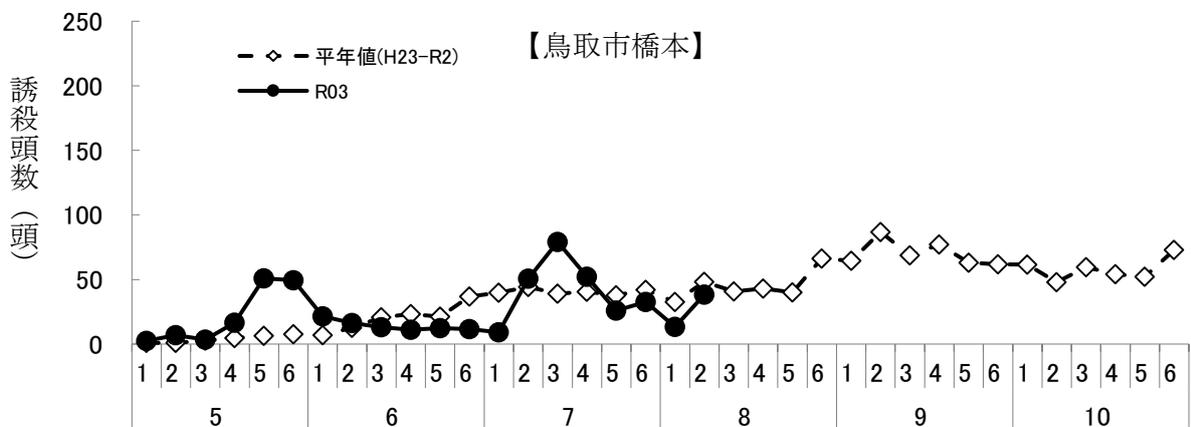
対象病害虫：ハスモンヨトウ（ダイズ：No. 1、野菜：No. 3）

令和3年8月17日
鳥取県病害虫防除所

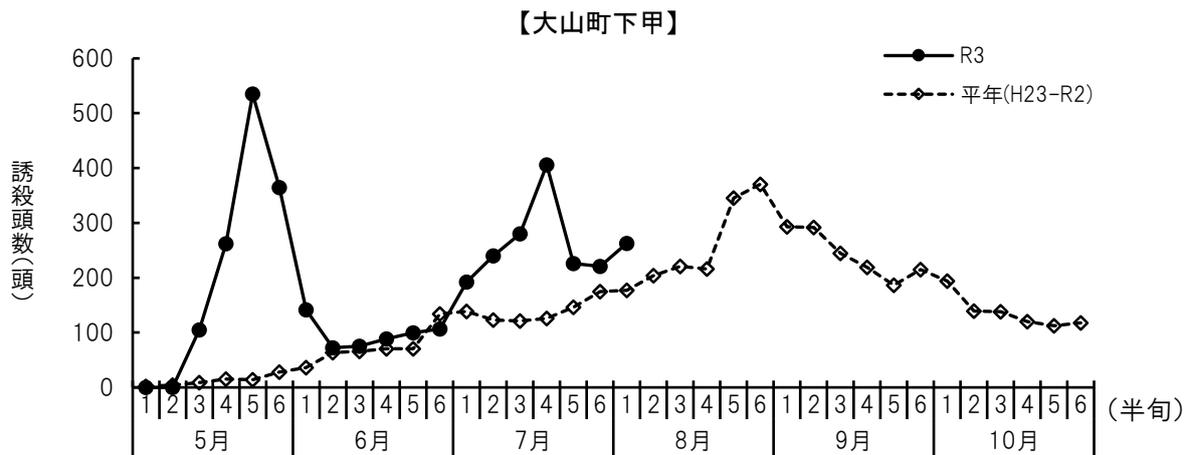
1 発生状況等

8月第2半旬現在、フェロモントラップによるハスモンヨトウの前世代成虫の誘殺数はやや多い～多く、今世代成虫の誘殺数もやや多い～多いと予想される。

【ダイズほ場調査】（鳥取市橋本：武田式乾式トラップ、その他の地点：ファネルトラップ）



【野菜ほ場（ブロッコリー）調査】（ファネルトラップ）



(2) ダイズほ場においては、県中・西部を中心に白変葉が増加し始めており、今後、被害が増加すると予想される。

(3) 野菜ほ場（ブロッコリー）においては、誘殺数が例年より多いことから、今後、次世代の産卵数及び食害被害が増加すると予想される。

2 防除上注意すべき事項

(1) ダイズ

ア 若齢幼虫の加害によって発生する白変葉の早期発見に努める。白変葉の発生は、地域間差、ほ場間差が大きい。これまでにチョウ目害虫の食害を受けているほ場では、特に注意が必要である。

イ 防除の目安は、1 a 当たりの白変か所数5か所以上とする。

ウ 若齢幼虫（体長1 cm以下）に対する登録農薬の効果は高いが、齢期が進むと防除効果が低下するため、散布適期を失わないようにする。なお、中齢～老齢幼虫が混在する場合は、ジアミド系殺虫剤を散布する。

(2) 野菜

ア 薬剤の感受性が高い若齢幼虫期（体長1 cm以下）に防除を行う。食害痕がみられ始める頃が防除適期である。

イ 食害痕は不整形の白斑となり、更にかすり状に透けて見える。はじめ卵塊から孵化した幼虫は集団で産卵場所やその周辺にとどまり、葉の表皮を残して葉肉部を食害する。ほ場内を観察し、食害痕が目立つ株に注意する。



図1 ハスモンヨトウ成虫



図2 ハスモンヨトウ幼虫（老齢）



図3 ハスモンヨトウ卵塊（上）と若齢幼虫（下）



図4 ハスモンヨトウ若齢幼虫によるダイズの白変葉